



## 1年間の終わり ~修了式~

本日3月25日に修了式が行われました。  
新型コロナウイルス感染防止のため、校内放送で行いました。

修了式では、次のような話を子供たちにしました。

おはようございます。

新型コロナウイルスに、おびえる毎日でした。本当に、世界中の人たちが、大変な1年間を過ごしました。今もコロナには、注意しなければなりません。

1年間をふりかえると5月25日の始業式の時に、全校のみなさんと「やればできるは魔法の合言葉」を確認しました。そして、3つの約束をしました。もっともっと相手の気持ちを考えて、わかってあげられる、思い遣るそんな自分になってほしいこと。勉強を真剣に取り組んでほしいこと。そして、命の重さ、生きることを大切にすることになってほしいことの3つでした。

この3学期は「友達を思う力」を身につけようと約束しました。

みなさんは、マスクをつけて生活しなければならぬ1年間でした。しかし、このマスクの下は、いつも心のスマイル、笑顔で生活し、校長先生との約束を守ろうとする姿がいつも見られました。とてもうれしかったです。

みなさんにとって、相川小でのこの1年間はどうか。学校では、勉強をよく頑張りましたね。友達とけんかもしたけれど、仲直りして生活することができましたね。休み時間は楽しかったです。おいしい給食をみんなでいただくことができました。

この1年間、本当に大変だったこと、苦労もたくさんあったことも、先生や仲間がいて、一緒に乗り越えられてきたのだと思います。校長先生や相川小の先生方は、本当にみなさんに感謝しています。ありがとう。

学校ってやっぱりいいよな。友達ってけんかもするけれど、仲間だな。と思うみなさんの気持ち、心が立派に成長しました。心からうれしく思います。

最後に、先生方もとても大変な1年間でした。みなさんと先生方が、助け合って本当によく頑張りました。新年度、4月7日には、また元気に学校へ来てくださいね。

これで校長先生の話は終わります。

## 山下さん ありがとうございます

2月の学校だよりでお知らせしました子供たちの見守りボランティアを15年間にわたって、行っていたいただきました山下 久雄さんに感謝する会と感謝状贈呈式を16日(火)に行いました。

感謝する会では、校内テレビ放送を通して、山下さんから全校児童にあいさつをいただきました。あいさつの中で、山下さんからは、「これからもみんなが元気で生活していけるように頑張ってください。」と励ましの言葉をいただきました。そして、児童会長さんから山下さんにお礼の言葉が述べられました。

引き続き行われた感謝状贈呈式には、地域、保護者を代表して保坂地区自治会連合会長さん、新藤PTA会長さんに参加していただきました。式では、感謝状をお渡しし、児童のメッセージ入りの手作りアルバムを山下さんに贈りました。



贈呈式後、校長室でいろいろなエピソードを山下さんから聞かせていただきました。そして、山下さんは、この15年間の見守りは、「自分にとって決して無駄ではなかったし、子供たちを通して自分自身が勉強になりました。」とおっしゃいました。

思い出話の1つとして、山下さんに用事があって見守りボランティアを休んだ日がありました。その翌日に下校時の1年生が「おじちゃん、昨日はいなかったね。」と言ったそうです。山下さんが思わず、「用事があってなくて、ごめんね。」と言うと、その1年生は「ごめんは、ないの。(いやないの)」と笑顔で話したそうです。子供と山下さんのやりとりのほほえましいお話でした。

山下さんは、贈られたアルバムを目を細めて、うれしそうにご覧になっていました。

山下さんは、25日(木)の下校見守りが最終日となります。

# 「子供の話をどう聴くか」

～本当のことを話せた気持ちを大切に～

子供が学校生活の様子、出来事、担任の先生の指導・対応を正しく、お家の方に話をしていますかということです。

私は、子供の時は、自分に都合が悪いことは話さなかったり、嘘をついたりしていたと記憶しています。でも、学校で泣きべそをかいて帰ってくると、涙の跡が頬に残っていたために、祖父母に学校で泣いたことがばれて、結局、全てを話すことになりました。

## 出来事や担任の指導が正しく伝わっていますか？

例えば、学校で友達同士でけんかが起きてしまったとします。下校までの限られた時間の中で、けががあった場合の対応や当事者同士の言い分や状況確認を行います。可能な限り、双方が納得して理解しあったことを確認して、下校させるように担任は取り組みます。（出来事が起きた時間や授業の関係で、そこまで指導しきれない場面も数多くあります。）

お家の方へは、できる限り迅速に経過や指導の対応を連絡（全てが確認できていなくて一次連絡的な状況であっても連絡するよう担任に指導しています。）して、ご家庭の協力もいただき、その後のフォローに努めるよう特に担任には指導しています。

ところが、帰宅後、子供が全く反対のこと（例えば「僕が悪いんじゃない。」「先生は、僕ばかり注意した。」というようなこと）をお家の人に話すと、解決からその後のフォローに向かう取組も、元に戻ってしまいます。保護者は心配になって様子を聞きたくて担任へ相談することになります。

## 話せたことや問題解決を褒めてあげてください

子供が反対のことを言う、つまり「嘘をつく」理由は、自己防衛です。親から怒られたくないからです。家庭においては、子供の自尊心を大切にしながら、何でも話せる親子の関係性づくり、正直に話したことや問題の解決に頑張ったことなどを大いに褒めるべきでしょう。

自尊心を向上させながら、問題に対して正しい解決の方法を家庭でも教えてあげてください。

学校の方でも、子供たちには「問題を解決していくためには、正しい話をすることの大切さ」を学年段階に応じて、指導していく必要があります。

そして、正しく問題解決に至った時には、そのことを褒めて認めてあげることが、子供自身の成長につながっていく大切な営みだと改めて感じています。

# コロナ禍の1年間をふりかえって

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年間でした。

新年度の入学式、始業式が再延長され、5月24日（日）に入学式を、25日（月）に1学期が始まりました。とても長い期間の臨時休業は、ご家庭も学校もとても大変でした。そして、臨時休業中の子供たちの家庭生活も心配でした。家にこもる時間が長くなって大丈夫だろうか。また、確かに家庭学習プリントは渡したものの、かえって負担にならないだろうか等、いろいろなことが心配になりました。コロナと臨時休業が子供たちに与えた影響は、とても大きいものだったと思います。全ご家庭へ電話をする取組を行って、子供の声が聞けた時は、一時安心しましたが、学校再開までは、大変に長く感じました。

学校では、特に新型コロナウイルス感染症の感染防止に対する知見や経験がなく、不安な気持ちの中で、感染防止対策や校内環境の整備に取り組みました。それでも、とにかくできることは取り組んでいこうということで、様々な対応や取組を試みました。

年間計画で予定されていた行事も、感染防止のために中止になったり、延期になったりと、計画立てをしても再び、練り直して検討する時間が増えました。「情報収集」→「分析」→「検討」→「判断」の繰り返しでした。

短い夏休みが終わって、2学期が始まりましたが、熱中症の防止と感染症の防止の両立については、大変な苦労でした。

春から秋に延期していた大きな行事が集中したのは2学期でした。5年生の林間学校、6年生の修学旅行は宿泊を伴うものでしたので、感染防止が一番の課題でした。また、運動会は熱中症防止のテント内での3密を避けて9月から11月に延期して実施となりました。参観する保護者の人数制限を行って、体調や体温管理を徹底しました。ご家庭のご理解とご協力があって、運動会は実施できました。

学校では「新しい生活様式」としての学校生活も少しずつ子供たちに定着してきました。ただ最も難しいのは、児童同士のソーシャルディスタンスの確保です。近づきすぎてしまいます。

まとめになりますが、子供たちは1日1日の学校生活を学習に生活に本当によく頑張りました。子供たちにも感謝です。

このような大変に厳しい中であっても、本校の教育活動を一步でも前に進めることができたのも、子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様に心から感謝をしています。

新年度もどうぞよろしく願っています。

1年間、相川小ホームページ「相川小ブログ」を見ていただきありがとうございました。